

当別文芸の会だよりNO. 84

H29・5/31 (連絡先・河地良一 Tel090-5076-2550)

5月の読書会は、あさのあつこの「弥勒の月」でした

新緑を迎える季節になりましたが、朝晩、まだ寒さが残り、陽ざしも一進一退といったところでしょうか。5月27日(土)の読書会は、午後からあいにくの土砂降りの雨でしたが、会員10名のみなさんが参加されました。

「当別文芸の会」も、8年目を迎えますが、今年度最初の読書会は、会員の後藤まゆみさん(元町)推薦の、あさのあつこの「弥勒の月」(光文社文庫)を取り上げました。今回の感想交流の司会進行も後藤まゆみさんをお願いしました。

あさのあつこは、昭和29年(1954)、岡山県の生まれで、野間児童文芸賞、小学館児童出版文化賞受賞の作家ですが、時代小説を書くようになったきっかけは、藤澤周平の作品に魅せられたことからのようです。

その初めての時代小説「弥勒の月」は、「読む人の肺腑を鋭い刃物でえぐるかのように、人間とは、男とは、女とは、人生とは、そして生きるとはなんたるかをズシンと胸に響く言葉で教えてくれる」と、俳優の児玉清はこの文庫本の解説で語っています。会員の読後感想は、「面白く読めた」「現在とは違う価値観のなかでも、人間の考えはそう変わっていない」「内容がよくつかめない」など、様々な意見が出されました。

歴史小説は史実をどう見るかに重きをおき、時代小説は人間の生きざまに面白さがあるなど、様々な見方があるようですが、あまり、その違いにこだわらず、人それぞれのアプローチのしかたで、これからも色々な作品に触れる機会を大事にしようというのが、今回のおおかたの感想といったところでしょうか。

また、このような読書会を通して、多様な考え方の中から、生きる糧になるものを見つけることが出来ればいいですね。人生と同じく、あせらず、ゆっくり、一歩ずつですか。

次回は6月17日(土) 13:30 白樺コミセンです

次回の読書会は、坂本直行の「開拓の記」(資料本・1回目)を取り上げます。

お手元にお届けしたのをお持ちください。

新会員を随時募集しています(現在会員20名)

問い合わせは、世話人代表・河地まで(Tel090-5076-2550)